

## 7月東京盆出荷向けの白色コギク新品種「常陸サニーバニラ」

### [要約]

「常陸サニーバニラ」は花色が白色で、切花長が長く草丈が確保しやすい。花蕾数が多い頂点咲きで、市場性評価が高い。開花期は6月下旬から7月上旬で、7月東京盆向けの出荷が可能である。電照効果はみられない。

農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所	H25年度	成 果 区 分	普 及
---------------------------	-------	------------	-----

### 1. 背景・ねらい

茨城県のコギクは、県内の切り花出荷品目では産出額が第1位、全国においても栽培面積が第2位、出荷量が第3位の地位にあり、重要な花き品目となっている。生産現場からは県による品種育成の要望が高い。そこで、市場から求められている頂点咲きの草姿で、本県の主要作型である物日出荷に対応できる県オリジナル品種を育成する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 平成16年に「夏ひかり」×「雪舟」の組合せで交配し、得られた実生23個体から選抜した品種である(図1)。
- 2) 花色はRHSカラーチャートのNN155Cの白である。開花時期は「雪舟」よりも早い6月下旬から7月上旬で、東京盆出荷が可能である。切花長は「常陸サニーホワイト」、「雪舟」よりも長く、切花重は重い。節数および花蕾数は「常陸サニーホワイト」、「雪舟」よりも花径は「常陸サニーホワイト」よりも小さく「雪舟」並である。フラワーフォーメーションは「雪舟」並の頂点咲きである(図1、表1)。
- 3) 電照栽培による開花調節(7月作型)の効果は期待できない(表2)。
- 4) 現地試験の評価は、総合的に良～普通である。切花長、花色、ボリューム、フラワーフォーメーションにおいて評価が高かった。また先行品種「常陸サニーホワイト」と比べてボリュームがあり、花蕾の着色がないことから優位性があるとの評価であった。全ての生産者から導入希望があった(表3)。
- 5) 市場性評価は、ほとんどの項目で評価が高かった(表4)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 平成25年4月1日に品種登録を出願した(出願番号 第28074号)。
- 2) 育成時の系統番号は「ひたち18号」および「生研24号」である。
- 3) 県内全域で栽培できるが、表1の特性値は笠間市安居におけるものである。
- 4) 種苗は、(公社)園芸いばらき振興協会がH26年7月下旬～9月上旬に受注し、10月中旬～11月下旬に県内配布予定である。

4. 具体的データ

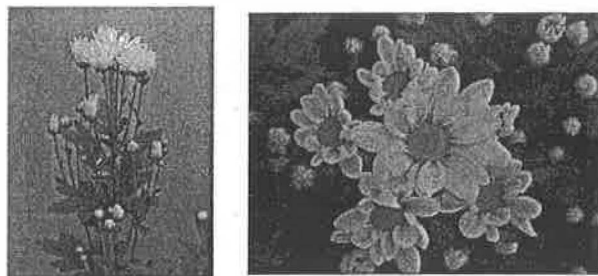


図1 コギク「常陸サニーバナラ」

表1 コギク「常陸サニーバナラ」の特性

(平成23年度、生物工学研究所)

品 種 系 統	花 色 (RHS)	開花日 始-終 (月/日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	節数 (節)	分枝数 (本)	花蕾数 (輪)	花径 (cm)	FF <sup>2)</sup>
常陸サニーバナラ	白(NN155C)	6/27~7/2	91.8	73.6	32.0	9.4	40.0	4.1	2.0
常陸サニー初作	白(NN155C)	6/29~7/3	83.4	55.1	29.6	8.4	28.2	4.5	1.0
雪舟	白(NN155C)	7/9~7/16	61.2	43.8	25.6	8.2	30.8	3.9	2.0

1)RHS カラーチャートによる。2)フラワーフォーメーション (右図)

3)耕種概要：10×40cmの2条植えマルチ栽培、施肥量N 1kg-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 1kg-K<sub>2</sub>O 1kg/a、定植日 3/31、摘心は定植1週間後、仕立て本数は1株3本。



表2 「常陸サニーバナラ」の電照栽培における生育特性の変化 (平成25年度、園芸研究所)

	開花日 (始-終)	切花長 (cm)	節数 (節)	FF <sup>1)</sup>
電照	6/28 (6/25-7/4)	113.8	37.8	1.3
無電照	6/30 (6/26-7/5)	110.4	39.9	1.4

1) フラワーフォーメーション (右図)

2)耕種概要：定植日 3/26、電照開始は定植直後、消灯は5/14。

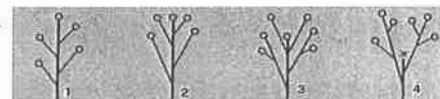


表3 現地試験におけるコギク「常陸サニーバナラ」の生産者評価 (平成23、24年度、園芸研究所)

表4 コギク「常陸サニーバナラ」の市場性評価 (平成23年度、園芸研究所)

評価項目	極良	良	普通	劣	極劣	評価項目	極良	良	普通	劣	極劣
収量		●●	●●●●			花色		●●●●●●●●			
作りやすさ*		●	●●●●●●			花径		●●●●●●●●			
白さび病*	●		●●●●●●			花の形		●●●●●●●●	●		
切花長		●●●●●	●●			花数	●	●●●	●●●		
花色		●●●●●●				茎葉の色	●	●●●●●●	●		
花質 (形・大小)		●	●●●●●●			ボリューム	●	●●●●●●	●		
茎葉色		●	●●●●●	●		FF <sup>1)</sup>	●	●●●●●●	●		
ボリューム		●●●●●	●●			総合評価		●●●●●●●●			
FF <sup>1)</sup>		●●●●●	●●			1) フラワーフォーメーション					
総合評価		●●●	●●●								
導入希望	有	●●●●●●●●	無								
*生産者による遠観評価											

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 本県コギク活性化のためのブランド品種の育成・平成14~平成19年度・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 2) 需要拡大のためのコギク新品種の育成・平成20年~平成24年度・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 3) 新品種育成普及促進事業・平成20~平成24年度・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 4) 新品種育成普及促進事業・平成18年度~・園芸研究所・花き研究室